

## 巨樹・巨木シリーズ-14 神奈川県の大樹・巨木-2

細田木材工業株式会社  
顧問 細田 安治

神奈川県は、地形的に兵庫県と似ている。箱根連山や丹沢を擁し、首都圏とは思えない奥深い地形となっている。生息する樹木も巨樹・巨木が多く選択に迷う。今号でもU氏の資料をもとに神奈川県の大樹・巨木-2として神社・仏閣の神木・仏木をご紹介します（おっと仏木なんて言葉があったかな。なければ筆者の造語としてお許しをいただきたい）。神奈川県案内が2回で終われるかどうかだが、数にこだわらず巨樹・巨木のもつ魅力に迫って行きたい。

### 高部屋神社のケヤキ

写真番号1 樹齢400年 樹周6.5m 樹高20.0m 伊勢原市下糟屋2202

今号では、いきなりケヤキの巨大な切り株が出てきた。平成25年(2013年)ごろに樹木医に枯死と判定を受け、切り株になったようだ。この巨大な切り株からは、この木が生きていた頃の容姿は想像できない。しかし巨大で威厳のある樹であったのではないか。

切り株の表面には様々な古い木独特の表情を見せており興味深い。神官が二人この木を守っているようなたたずまい、木の空洞(ウロ)の上には、アザラシが大きな牙をむき木を守っている、左側には二頭立ての馬車を曳いているような細長い馬の顔が見える…一日中見ても飽きない。

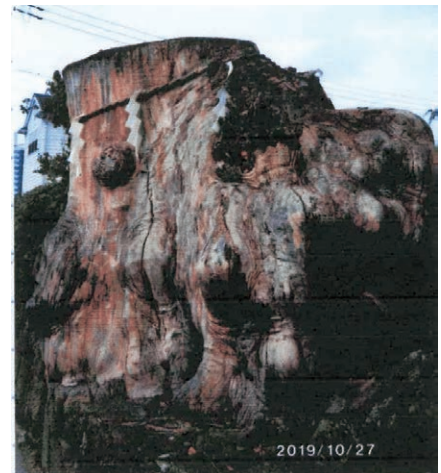


写真1 高部屋神社のケヤキ

### 城願寺のビャクシン

写真番号2

樹齢800年 樹周6.8m 樹高18.0m 足柄下郡湯河原町城堀252 国指定天然記念物

鎌倉時代、源頼朝に仕えた武将土肥実平とひさねひらの手植えと伝えられる。頼朝らの平家討伐を見守り、石橋山合戦に敗れた頼朝らが房総半島へ逃れるのを見守り、一時期荒廃した城願寺が復興していくのを見守った歴史の証人ともいべき巨木である。(城願寺HPを参考)

このビャクシンは幹のねじれが著しく小枝もよく茂った古木である。

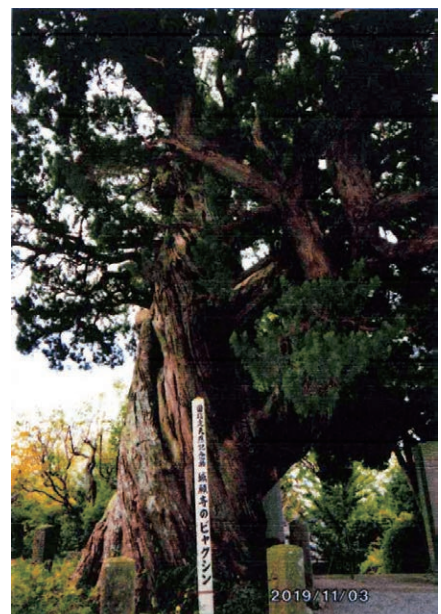


写真2 城願寺のビャクシン

#### ◇筆者のつぶやき

神奈川県にはビャクシンが多いと何回も書くほどビャクシンが多い。数多く取り上げるのも気が引けるがこのビャクシンを取り上げたのは、ねじれが強く、まるであめんぼう(飴棒)のようにねじれしも、やや地面から上がった部分から支幹が広がりながら巻き付いていくさまは、これが木とは思えないような珍しい巨木だからである。奇樹、珍木の範疇を超えている。自分で自分の体を締め上げて苦しんでいるようにも見えるさまは、大蛇がとぐろを巻く、とも違うな。なんと表現したらよいか。

#### 小田原城址のイヌマキ

写真番号 3

樹齢100～199年 樹周4.5m 根元周囲約6m 樹高20.0m 枝張り状況 東西25m、南北13m 小田原市城内3-22 小田原市指定天然記念物

このイヌマキは幹回り4.5mに達し小田原市内でも最大のイヌマキである。主幹が左巻きにねじれ、地上5mで四つの支幹に分岐し、雨傘を思わすように四方に枝を広げ観るも見事であった。

ところが台風のために北側の大枝が折れたという。しかし、樹勢なお旺盛であり、姿かたちは壮観さを保っている。(案内板を参考)

城址内に数多くある古木名木のなかでも、本丸跡にあるもう一本の巨木はマツの木である。このイヌマキは威厳あるマツと並び、あたりを睥睨し、城址内の双壁となっている。



写真3 小田原城址のイヌマキ

#### 小田原城址本丸跡の巨(おお)マツ

写真番号 4

樹齢400年 樹周5.3m 樹高30.0m 神奈川県小田原市城内6

視察探究者U氏撮影の案内板は、雨の降りしきるなかをものともせず撮影した貴重な一枚である。解説に苦勞したが何とか読みとることができたのでご紹介する。

天保年間の相中雑誌に「御本丸に七本松という老松・・・」とある松の生き残りと思われる城址内最大の巨木である。小田原市の天然記念物に指定されている。本州から九州の海岸に生きる常緑針葉樹でアカマツとともに防風林、砂防林や街道の並木として植えられることが多い。(案内板)

#### ◇小田原城址の巨樹2本 筆者つぶやき

すでに述べたように小田原城跡地には巨木の中の巨木が二本並び立ち双壁と言われている。巨マツはイヌマキと共に、小田原城



写真4 小田原城址の巨マツ



の偉大さを彷彿させ、お城を守っていたのではないか。そのように想像を逞しくすると、大小を腰に丁髷姿のお侍さんが城内を闊歩している姿、また思わず吹き出したくなるようなユーモラスな侍の姿が目

二本の巨木のうちイヌマキは、雨傘を広げるように美しく更には強靱な存在感溢れる名木である。

自然の猛威により美しき枝の一部が折れたが、自らの身を痛めつつも、大風大雨なんのそのと、自然の猛威に耐え抜きそして跳ね返している。

一方の巨大なマツは、真っすぐにと天を突くように立ちあがり、神々しさが漂うほどだ。「黒の巨マツ」は見下ろすように、怪しいものは通さずの厳しきで、本丸を引き締めている。

ねじれと直立、一見してアンバランスな、この二本は、「城守り」として、小田原城を堅固に守ってきたのではないか。様々な思いを想起させてくれる存在感溢れる二本の巨木と言えよう。

### 長泉院のセンペルセコイアの大木

写真番号 5

樹齢100年 樹周5.35m 樹高41m 南足柄市塚原4440

このセンペルセコイアは明治中期以降に長泉院の住職が中国参拝記念に植えたと言われている。

センペルセコイアは成長が早いために昭和30年代には樹冠をとめたという。(案内板より)

#### ◇筆者のつぶやき

「セコイア」とはヒノキ科セコイア属の常緑針葉樹である。地球上で最も背が高い樹と言われて115メートルに達するものがある。

セコイアのなかには、センペルセコイアとメタセコイアがある。

違いはメタセコイアは紅葉するのに対し、センペル(常に)セコイアは名前に示される通り常緑。また、小枝より左右に出る葉がメタセコイアの葉は左右対称であるのに対し、センペルセコイアは、葉が互い違いである。

アメリカ、カリフォルニア州の国立公園にはメタセコイア、センペルセコイアが群生しており世界一のセコイアもこの公園に存立している。山火事に強い厚い樹皮をもち、まるで鎧を着ているような重厚さだという。古木になると樹皮の厚さが際立ち迫力ある樹相は、人に迫ってくるようだ。(ウィキペディアを参考)

センペルセコイアには苦い思い出がある。数十年前、筆者の父は国立市に居を構えるにあたり、センペルセコイアのきれいな緑の苗木を植えた。ところが他の植木とのバランスが悪くなるほど成長が早かった。新木場移転後、筆者が自宅の庭に移植したが、さらに成長し、ご近所の迷惑を考え新木場工場の敷地内に移植した。ところが、新木場の埋立地の風土が合わなかったのか、葉が黄ばみはじめ、残念ながらほどなく枯れてしまった。かわいそうなことをした。続く



写真5 長泉院のセンペルセコイア